

試験報告書

第 208032167-001 号
2008年(平成20年)05月14日

依頼者 株式会社 長崎地研

検体 ココトレール (原液1000ppm)

表題 殺菌効果試験

2008年(平成20年)03月27日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人
日本食品分析センター



東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号
大阪支所 〒584-0051 大阪府茨田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番
彩都研究所 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目4番41号

殺菌効果試験

1 依頼者

株式会社 長崎地研

2 検体

ココトレール（原液1000ppm）

なお、有効成分濃度は1000 ppmと依頼者から数値の提供を受けた。

3 試験目的

検体の細菌に対する殺菌効果を試験する。

4 試験概要

検体希釈液に大腸菌、黄色ブドウ球菌又はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の菌液を接種後(以下「試験液」という。), 室温で保存し, 2.5分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお、あらかじめ予備試験を行い、生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。また、培養後の生菌数測定平板を写真-1~9に示した。

なお、試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより、検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 ml当たりの生菌数測定結果

試験菌	対 象	有効成分濃度* ¹ (ppm)	生菌数 (/ml)	
			開始時* ²	2.5分後
大腸菌	検 体	1	9.6×10^5	<10
	対 照	—	9.6×10^5	6.4×10^5
黄色ブドウ球菌	検 体	1	6.7×10^5	<10
	対 照	—	6.7×10^5	8.5×10^5
MRSA	検 体	1	9.2×10^5	<10
	対 照	—	9.2×10^5	6.3×10^5

<10：検出せず

対照：精製水(黄色ブドウ球菌及びMRSAは生理食塩水)

保存温度：室温

*1 有効成分濃度から換算し、調製した。

*2 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

6 試験方法

1) 試験菌

Escherichia coli NBRC 3972(大腸菌)

Staphylococcus aureus subsp. *aureus* NBRC 12732(黄色ブドウ球菌)

Staphylococcus aureus IID 1677(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌；MRSA)

2) 菌数測定用培地及び培養条件

SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]，混釈平板培養法，35℃±1℃，2日間

3) 試験菌液の調製

試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35℃±1℃，18～24時間培養した後，生理食塩水に浮遊させ，菌数が約 10^7 /mlとなるように調製し，試験菌液とした。

4) 試験操作

検体希釈液(有効成分濃度から換算して1 ppmとなるように，精製水を用いて調製した溶液)10 mlに試験菌液を0.1 ml接種し，試験液とした。室温で保存し，2.5分後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]を用いて直ちに10倍に希釈した。この希釈液の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお，対照として，精製水(黄色ブドウ球菌及びMRSAは生理食塩水)を用いて同様に試験し，開始時についても生菌数を測定した。

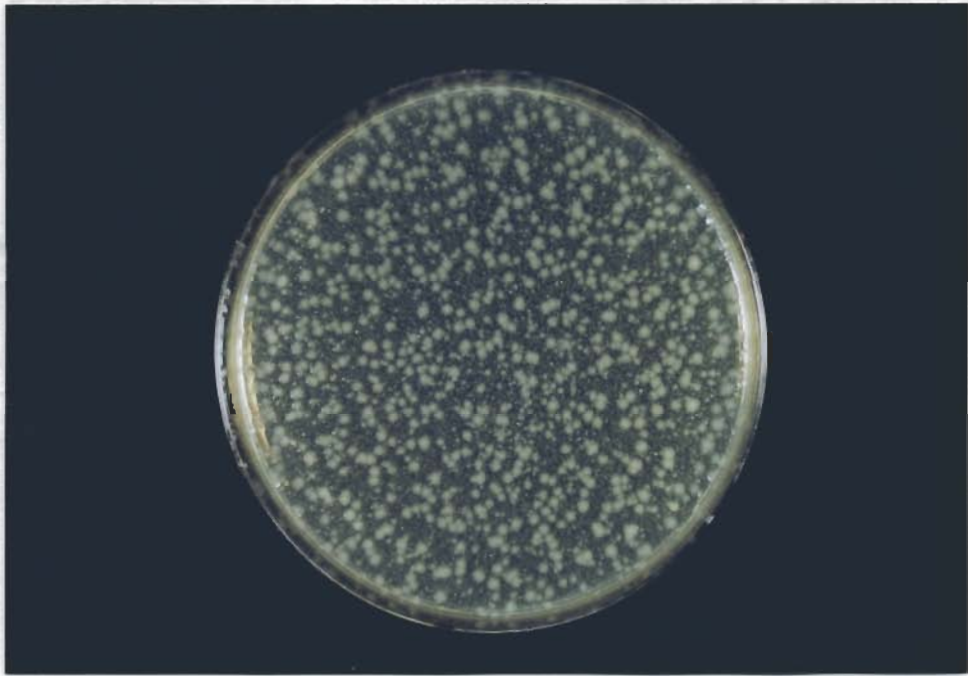


写真-1 大腸菌 対照 開始時
(試験液 0.1 ml相当)

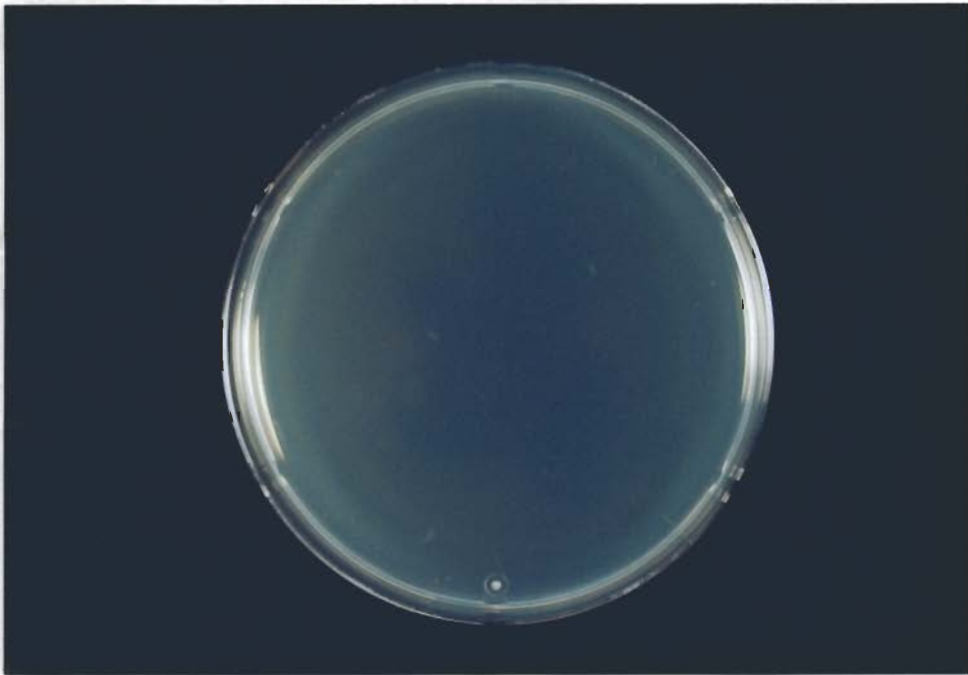


写真-2 大腸菌 検体 2.5分後
(試験液 0.1 ml相当)



写真-3 大腸菌 対照 2.5分後
(試験液 0.1 ml相当)

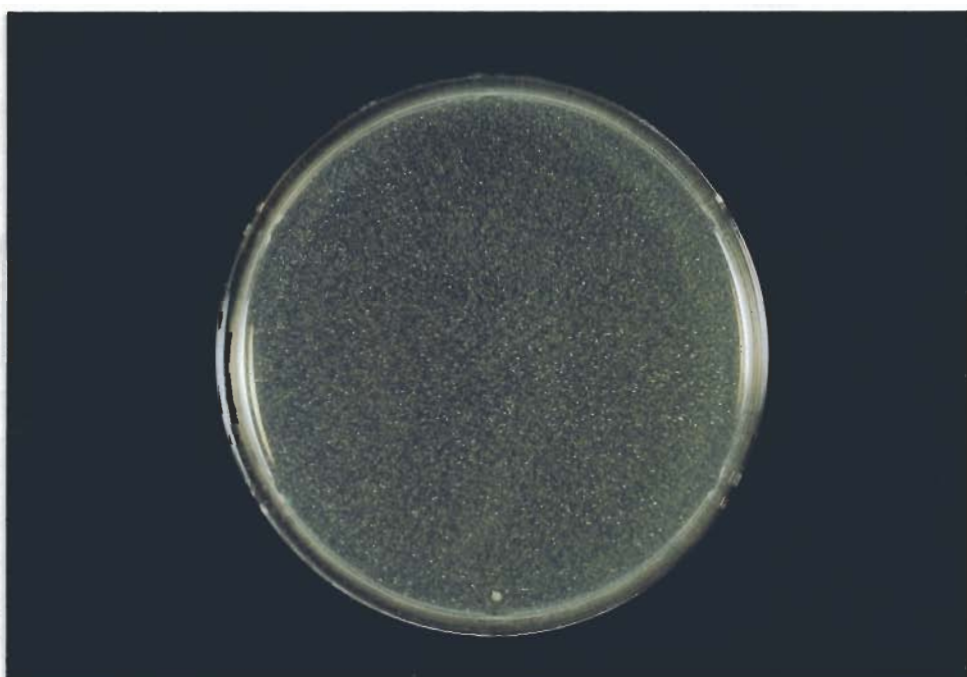


写真-4 黄色ブドウ球菌 対照 開始時
(試験液 0.1 ml相当)

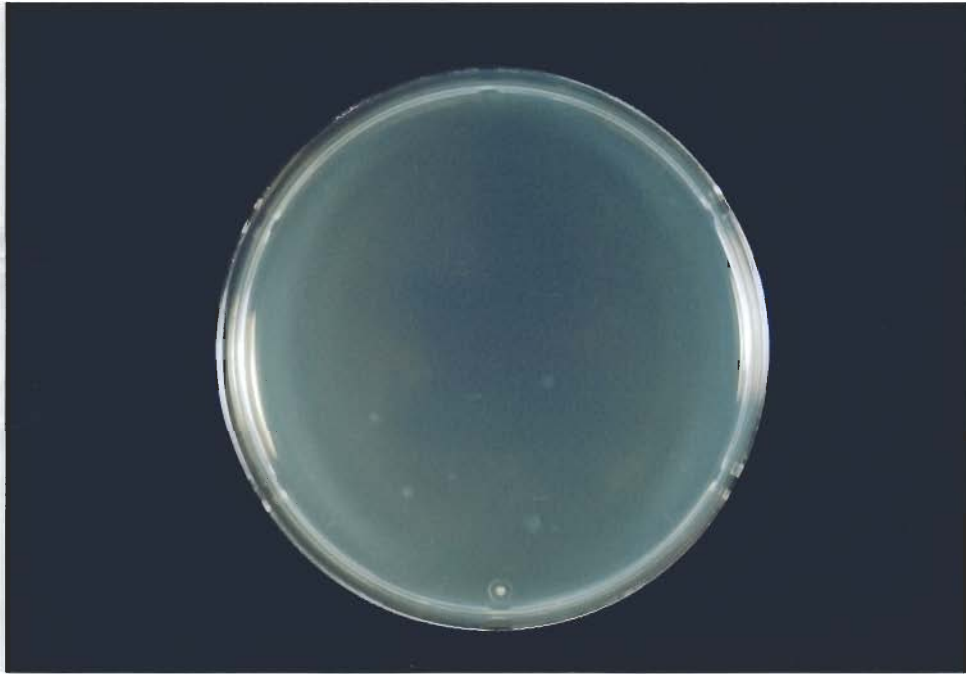


写真-5 黄色ブドウ球菌 検体 2.5分後
(試験液 0.1 ml相当)

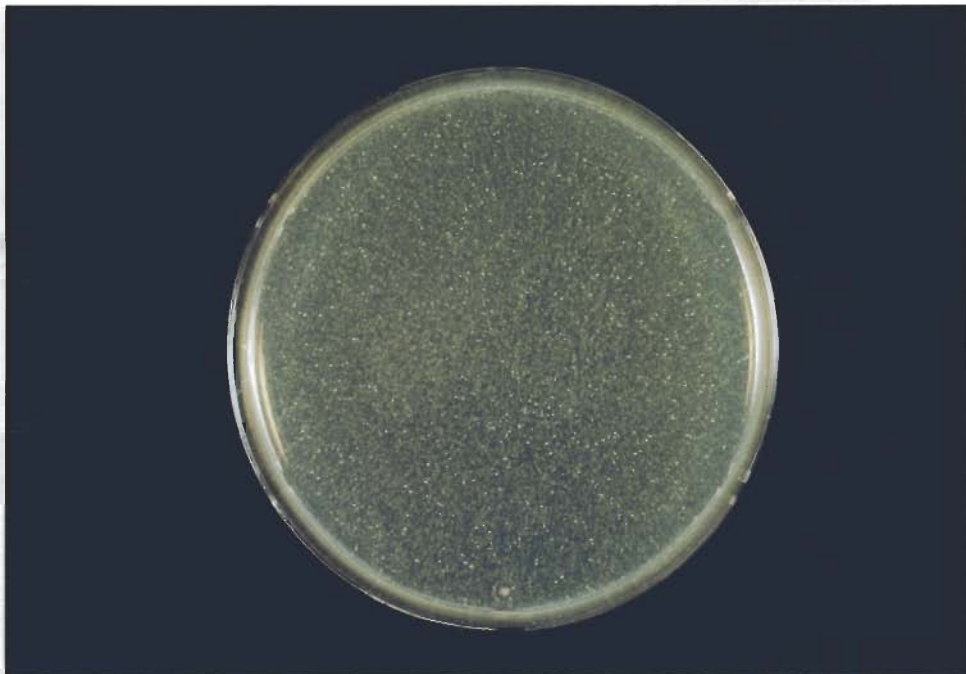


写真-6 黄色ブドウ球菌 対照 2.5分後
(試験液 0.1 ml相当)

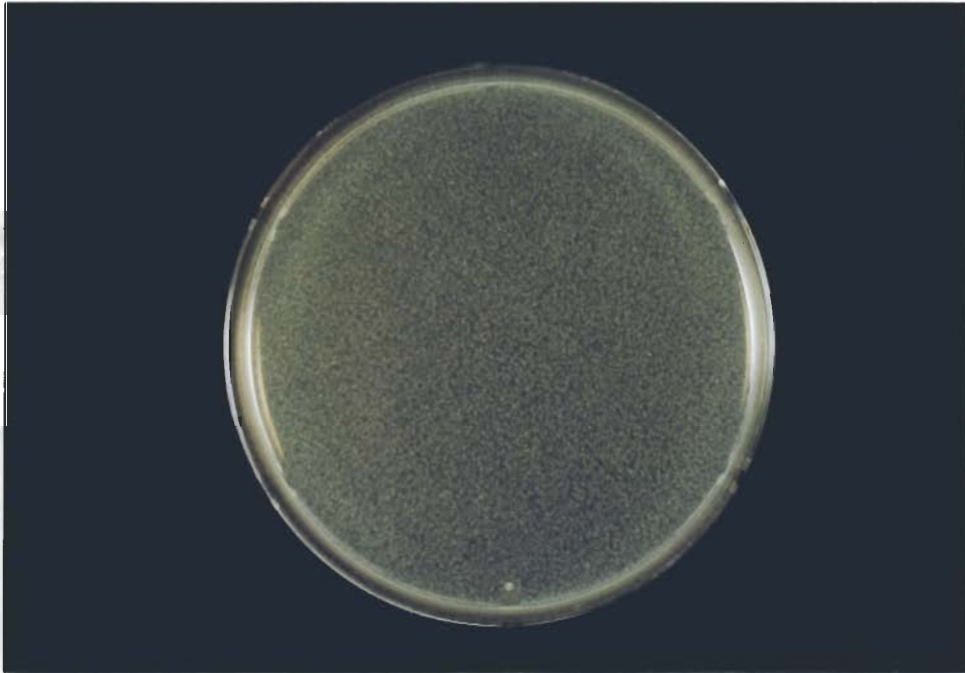


写真-7 MRSA 対照 開始時
(試験液 0.1 ml相当)

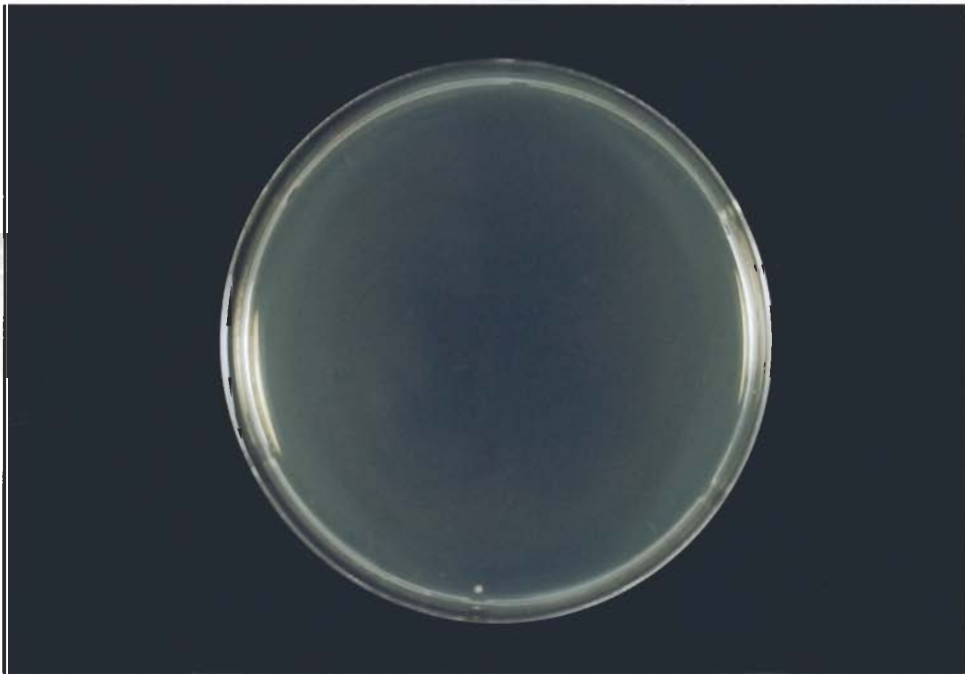


写真-8 MRSA 検体 2.5分後
(試験液 0.1 ml相当)

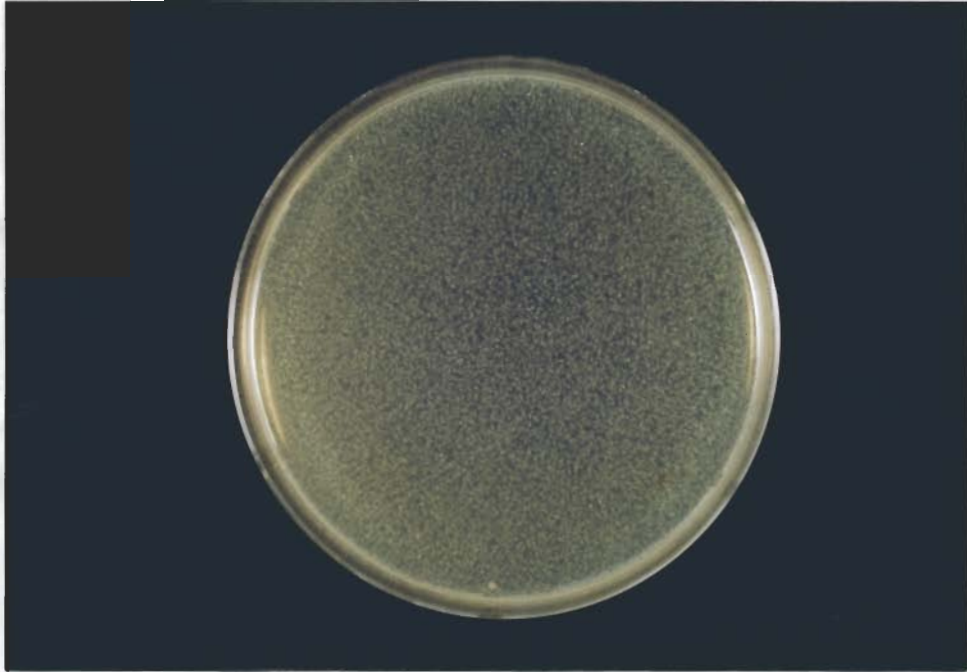


写真-9 MRSA 対照 2.5分後
(試験液 0.1 ml相当)

以 上

試験報告書

依頼者 株式会社 長崎地研

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 ココトロール (1000 ppm)

表題 殺菌効果試験

2020 年 04 月 01 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

殺菌効果試験

1 依頼者

株式会社 長崎地研

2 検体

ココトロール (1000 ppm)

3 試験概要

検体を用いて調製した試料液に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験(表-2 中和条件を参照)により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対象	濃度	生菌数(/mL)	
			開始時	2.5分後
レジオネラ	検体	1000倍希釈	—	<100
	対照	—	6.1×10^6	5.3×10^6

<100 : 検出せず

保存温度 : 室温

対照 : 精製水

表-2 試験条件

	試験菌	<i>Legionella pneumophila</i> GIFU 9134(レジオネラ)	
試験菌液	前培養：B-CYE α 寒天培地[栄研化学株式会社], 35 °C \pm 1 °C, 2~3日間 菌液調製溶液：精製水 菌数：10 ⁸ ~10 ⁹ /mL		
試験液	精製水を用いて1000倍に希釈した試料液10 mLに試験菌液0.1 mLを接種		
保存条件	2.5分(室温)		
中和条件	SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈		
対照	精製水		
生菌数測定	B-CYE α 寒天培地, 平板塗抹培養法		35 °C \pm 1 °C, 7日間

以 上